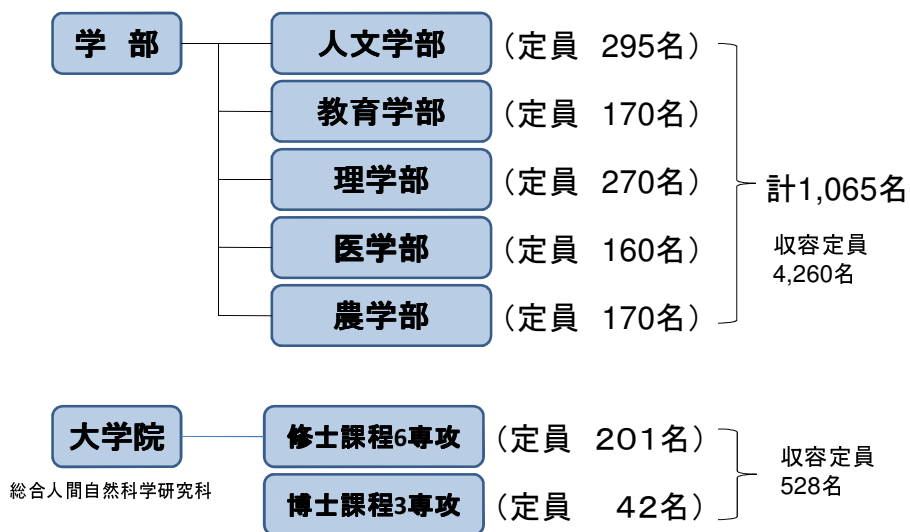




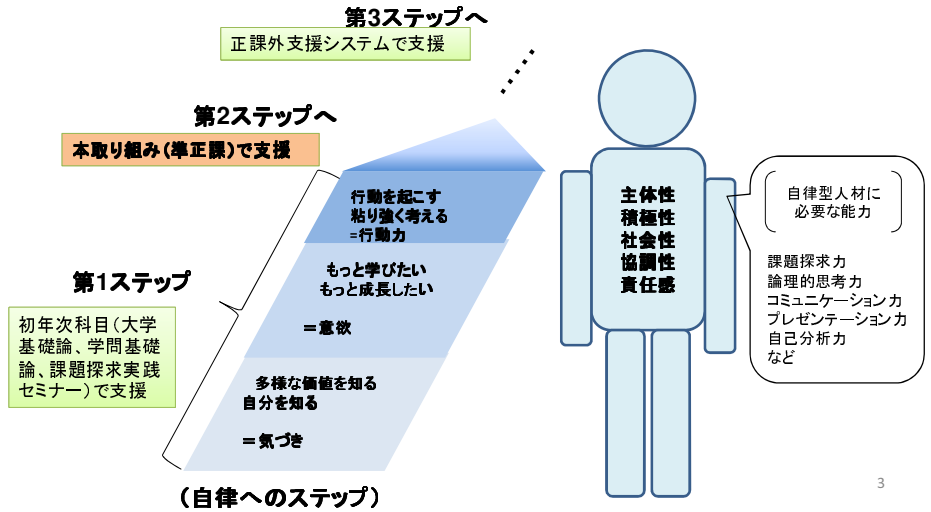
## 高知大学の概要

専任教員数 612名(平成19年度)  
<内267名は医学部>



# 1. 教育目標と取組の位置

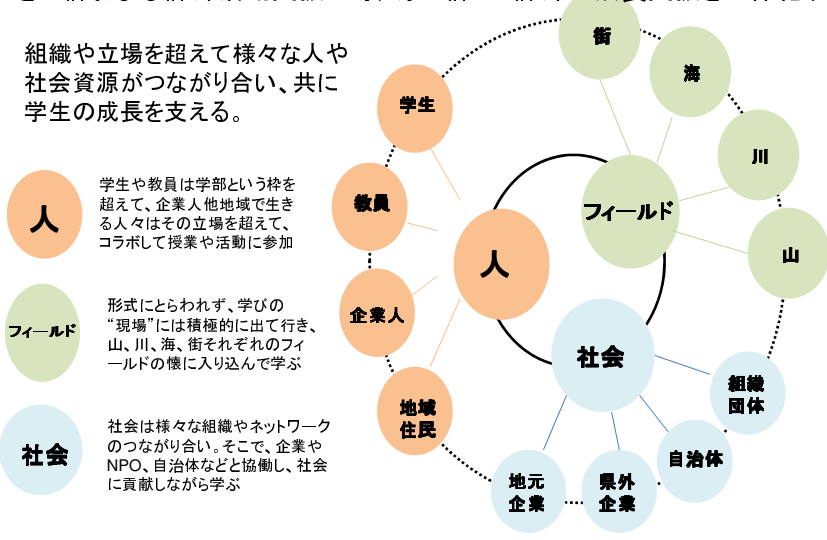
目指すのは・・・ **自律型人材**



## ◇新たな教育手法の導入ー社会協働教育の一環

社会が求める自律型人材を育成するため、既存の“枠”を超えた授業や取組を正課および課外活動支援に導入。正課・正課外の成長支援を一体化する。

組織や立場を超えて様々な人や社会資源がつながり合い、共に学生の成長を支える。



- 人** 学生や教員は学部という枠を超えて、企業人他地域で生きる人々はその立場を超えて、コラボして授業や活動に参加
- フィールド** 形式にとらわれず、学びの“現場”には積極的に出て行き、山、川、海、街それぞれのフィールドの裡に入り込んで学ぶ
- 社会** 社会は様々な組織やネットワークのつながり合い。そこで、企業やNPO、自治体などと協働し、社会に貢献しながら学ぶ

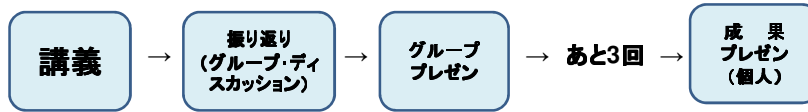
## ◇第1ステップを支援する初年次教育科目

### 大学基礎論 与えられる学びから、掴み取る学びへ

☆授業の狙い……①何ごとにも“疑問”を持つこと、②自分と違う考え方に触れること、③自分の考えを相手に伝えること。

☆授業内容……教員や社会人講師の話しを聞いて、感じたことを少人数グループでディスカッションし、自分の意見を伝える、相手の考えを理解することを通じて、様々な気づきを得る。

☆1年次1学期必修(各学部で開講)、統一した授業方式をとる。



※講義の前に、事前準備(講義を聴く課題の発見)を行う場合は、一連の作業が3回になる、4回確保する場合はグループプレゼンを個人のレポートで済ませます。ただし、レポートはグループ内で共有できるようにする。

☆担当体制……10～12名を1名の教員が指導。5～6人のチームを二つファシリテート。

5

## 課題探求実践セミナー

全学共通テーマ  
・自律協働入門  
・地域協働入門(3)  
・国際協力入門  
など

+

学部・学科テーマ

※教育学部教員養成課程  
100名および医学部160名  
は学部テーマ必修

=20題目(クラス)

**自律協働入門** 多くの他者と共感新自分自身と深く向き合う

授業の目玉は、夜通し人生談義をする「入門合宿」。社会人師匠から様々な話を聞き、そこから自分の人生観について考える。本質にたどり着くまで議論を掘り下げ、4年間を変えるきっかけを得る。

**地域協働入門** フィールドに出て、自分の目でものごとを見る

フィールドは、「山」「街」「海」の3つ。それぞれの現場でスタディーツアー(エクスカージョン)を行いながら、「本当の課題は何か」「それはなぜなのか」をチームで考える。

**国際協力入門** 多様性に気づきながら、答えの一つを考えていく

社会人講師による講義とワークショップで“固定観念”を取り払った後、夏休みに「宿題」として個々が様々な角度から国際協力を実践。報告会で振り返りを行い、理解を深める。

6

## 2. 取組の目的

自律型人材とは…

今、社会は「自律型人材」を求めています。

「自律型人材」とは、「社会や組織の中で自ら考えて判断し、行動できる人」です。具体的には、論理的思考力を身につけ、他者の考えを理解し、自らの考えを他者に伝えることができる人、責任感と協調性を持って粘り強く考え行動できる人、といえるでしょう。

自律性獲得への第一歩は他者との交流や学問との出会いを通じて自分を知ること、つまり「気づき」から始まります。気づきは学びや成長への「意欲」をもたらし、意欲は「行動力」へとつながっていきます。

高知大学では、この自律へのステップをできるだけ早い段階で踏み出せるよう、社会との協働を重視した独自の初年次教育で学生を支援しています。

(2001年版「大学案内」より) <http://www.kochi-u.ac.jp/JA/d-annai2011/index.htm>

### ◇支援の対象

初年次教育で「気づき」を得て、自らの成長のために行動を起こそうとする学生

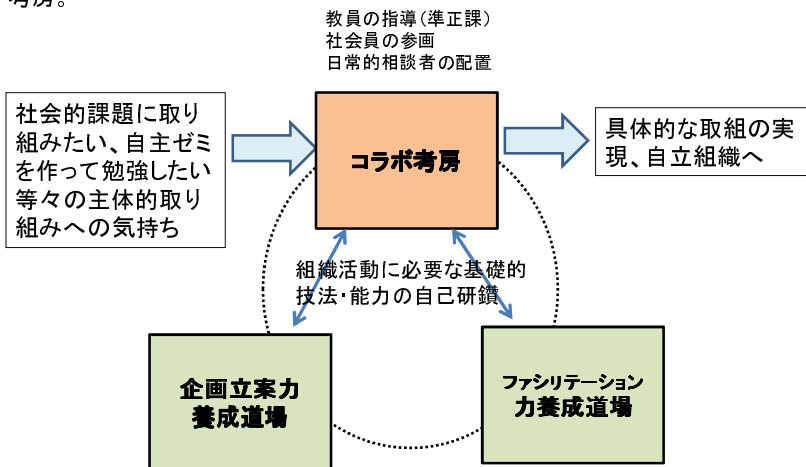
### ◇支援の目的

自分で(自立して)成長のステップを登ることができる力を養う。

7

## 3. 取組の内容

様々な授業や経験と出会う中で「もっと何かしたい」というキモチが学生の中に芽生えた時、その「キモチをカタチにする」(具体的な取り組みにする)支援のしくみがコラボ考房。



8

## 4. 対象学生と募集

### コラボ考房

- ◇対象学年:1年生(原則)
- ◇募集時期:新学4~5月(5月に採択)、7月~10月(10月に採択)、学年末
- ◇募集業務:教務補佐員(3名)を配置...主として初年次科目で宣伝
- ◇応募条件:①3名以上のグループであること、②新規チームであること、③リーダーは1または2年生であること。

### 企画立案力養成道場

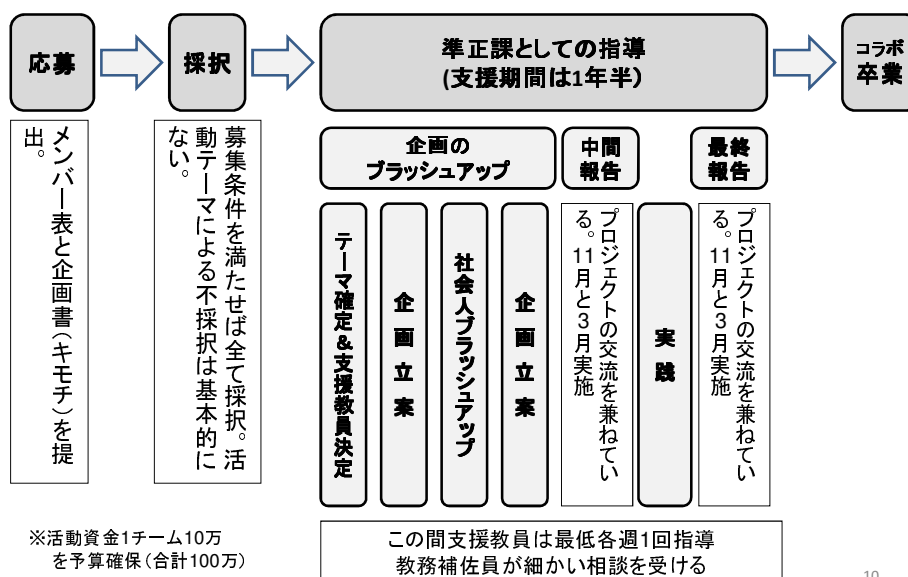
- ◇対象学生:全学年(コラボ考房採用学生は受講義務あり)
- ◇開催時期:5月、10月年2回
- ◇募集業務:教務補佐員(3名)
- ◇指導内容:企画立案のマインド養成(講義とグループワーク)  
※繰り返し受講可能 ※外部講師+支援教員で指導

### ファシリテーション力養成道場

- ◇対象学生:全学年
- ◇開催時期:2月、10月年2回
- ◇募集業務:教務補佐員(3名)
- ◇指導内容:会議等におけるファシリテーション技法とマインドの学習  
※外部講師+支援教員で指導

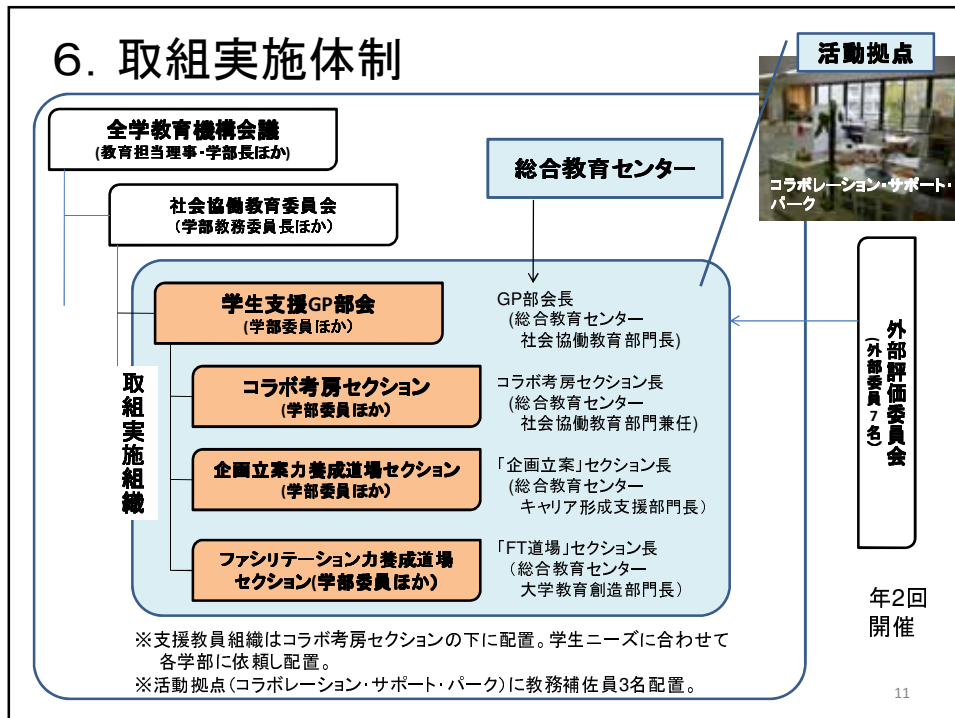
9

## 5. コラボ考房プロジェクトの流れと指導



10

## 6. 取組実施体制

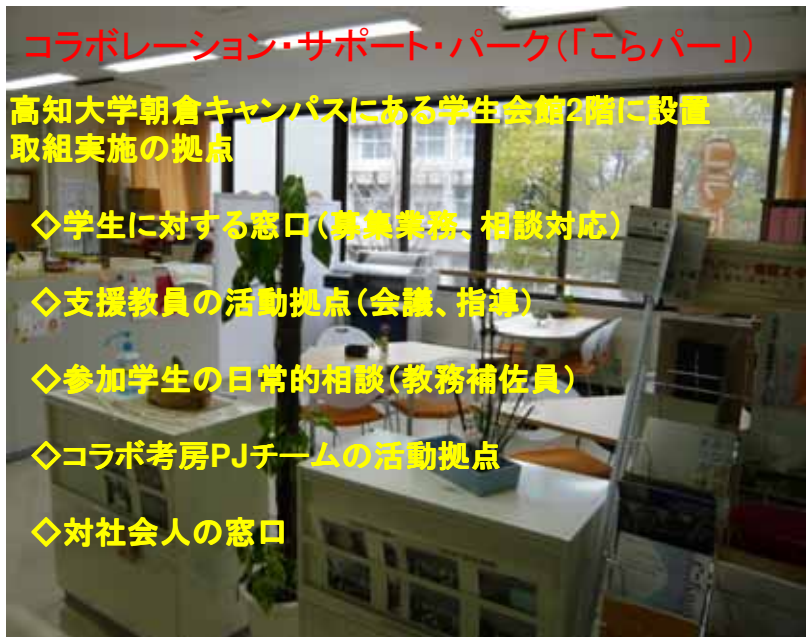


## 活動拠点

コラボレーション・サポート・パーク(「こらパー」)

高知大学朝倉キャンパスにある学生会館2階に設置  
取組実施の拠点

- ◇学生に対する窓口(募集業務、相談対応)
- ◇支援教員の活動拠点(会議、指導)
- ◇参加学生の日常的相談(教務補佐員)
- ◇コラボ考房PJチームの活動拠点
- ◇対社会人の窓口



## 7. 取組の実績

年度	コラボ考房		FT道場	企画道場	学生総数 (実数)	学 年		
	学生数	申請 件数	学生数	学生数		1年生	2年生	3年生 以上
平成19年度	38	8	25	15	63	27	27	9
平成20年度	43	8	19	20	65	36	15	14
平成21年度	48	10	54	42	102	82	14	6
平成22年度	27	9	21	35	52	41	7	4
合計	156	35	119	112	282	186	63	33

※3年生以上には大学院生を含む。殆どが「企画立案」道場の参加者。

※「FT道場」参加者の過半数が、この道場のみ参加者。「FT道場」受講が、課題探求実践セミナーにおける学生FT資格になっているため。

13

### ◆平成19年度学生支援GP「コラボ考房」プロジェクト◆

通番	プロジェクト名/チーム名	プロジェクトの内容	支援教員	プロジェクトの進捗状況
1	エコリズムを活かした地域活性化への道 ～土佐清水市の実践例を研究する～ 高知大エコリズム研究会(通称LINK)	自然豊かな地域におけるエコリズムを使った地域活性化の促進について現地の実践事例を研究し、高知県の地域づくりのあり方についての提言を行う。	人文学部 石筒 寛	定期的に勉強会を開催している。また、2/18(月)に四万十市にて現地調査を行った。現在も活動中。→20年11月22日最終活動報告
2	百遊会 生き生き長寿研究会	高齢者の自主的な活動、エンパワーメント(自分達が持っている力を発揮し、社会を変えていくこと)をサポートすることで、サクセスフル・エイジング(生き生き長寿)のあり方を考える。	医学部 戸田 由美子	百遊会の活動は定期的に行っている。→20年11月22日最終活動報告
3	開市—black market—@旭町！ FEAM—やみいち—旭マーチ	現代版開市という切り口からフリーマーケットを行い、高齢化しつつある中心市街地に学生が入り、地域の活動支援を図る。	人文学部 石筒 寛	20年5月&8月にイベント開催。→20年11月22日最終活動報告
4	とさじん とさじん	学生・社会人の本気になって頑張っている人、何かを成し遂げた人取材し、マガジンを発行することにより、人生の道しるべとなるような言葉で、将来がまだみえていない高知大生を応援する。	人文学部 石筒 寛	マガジン発行に向けて準備中。→20年11月22日最終活動報告
5	長者deキャンドルナイト☆ 長者きやんどらーズ	過疎化が進む高知県仁淀川町長者地域で、地域の人々と協働でキャンドルナイトのイベントを行い、今後地域の人々を中心となって行う地域活動の土台づくりをサポートする。	人文学部 上田 健作	12/24(月)に長者地域にてキャンドルナイトのイベントを実施した。
6	教育支援in田野 SOGK (supporter of getting knowledge)	高知県の山間地域の小学生達に、普段の学校生活では学べないような実践的な教育体験の機会を提供し、地域の教育活動の活性化を図る。	教育学部 小島 郷子	田野町にて地域の支援者と打合せを重ね、3/1(土)にプログラムを実施した。
7	幸せな家庭・社会を築こう ～住育コミュニティIN高知～ 住育コミュニティ実行委員会(高知支部)	お母さんの目線に立った家づくりを通して、家族や地域社会のあり方を学び、考えるセミナーを開催する。	黒潮圏海洋科学研究科 飯國 芳明	2/11(月)に高知文化ホールにて宇津崎光代氏を講師に迎えセミナーを実施した。
8	20代を本気でぶっつけ！！ 夢力(ゆめちから)プロジェクト	若手経営者を学内に迎え、セミナーを開催し、高知の学生が「本気とは」を考え、「自分なりの夢」を抱ききっかけを提供する。	総合教育センター 塩崎 俊彦	3/4(火)に高知大学にて大嶋啓介氏を講師に迎えセミナーを開催した。

14

◆平成22年度学生支援GP「コラボ考房」プロジェクト◆(一部)

通番	プロジェクト名/チーム名	学生人数	プロジェクトの内容 * (注)学生記述より	支援教員	プロジェクトの進捗状況
1	FPケースをつくりたいっ!!!! M.T.M.S(4名)	人文学部社会経済学科1年 2名 農学部農学科1年 2名	嶺北の木材を利用した、今までにない新しいグッズを作ることによって、若者に林業について興味を持ってもらう。企業に木材を使ったipodケース(FPケース)をプレゼンして、協力してくれる企業をみつけて、商品化→高知のアンテナショップまたは、ネットで商品を販売していく。	人文学部 中澤 純治	5月14日仮採択→6月2日企画発表→採択 5月22-23日企画立案力養成道場→9月16日活動支援金ヒアリング@橋原町
2	VIVA☆KOCHI Teamお籠(4名)	人文学部社会経済学科1年 3名 農学部農学科1年 1名	自分たちが高知について知るだけでなく、他の人に向けて情報発信を行い、高知の良さを知ってもらう。県内の様々な地域を調査し、高知の名所や隠れたよい物または場所などを発見する。そして、その内容を冊子や地図・現地ツアーなど何らかの形で情報発信を行い高知大生はもちろん県民の方などにも知ってもらう。	総合教育センター 大槻 知史	5月14日仮採択→6月2日企画発表→採択 5月22-23日企画立案力養成道場
3	Welcome to まうんてん あぐりい〜ず(3名)	人文学部社会経済学科1年 2名 農学部農学科1年 1名	農業の何が大変で、どこにやりがいがあるのかを考えてもらう。自分で作物を作り、成長過程をみてもらう。いろんな地域に赴き、たくさんの人に農業体験をしてもらう。自分達も農業を体験して、農家の大変さややりがいを感じる。農家の人と関わりを持ち、若い人が関心を持てるようにする。	総合教育センター 玉里 恵美子	5月14日仮採択→6月2日企画発表→採択 5月22-23日企画立案力養成道場
4	農学部活性化Project Start★(3名)	農学部農学科3年 3名	農学部主体の、農学部のための学内活性化グループを作る。農学部をもっと元気に、活発で明るいキャンパスを目指す。大学内での学生・教員の交流を増やす。月1回でイベントを企画。学生交流会を開く。ボランティアやイベント、講演会などの情報や学生活動についての情報をHPを使って提供。		5月14日仮採択→6月1日申請取り直し 応募に変更 5月22-23日企画立案力養成道場

15

## 9. 総括

### ◇成果

#### (1) 正課と課外の連動

そのシステムと方法を一定開発できたこと。

#### (2) まだ少数とはいえリーダー的学生の育成できたこと。

#### (3) 支援してくれる教員を若干増やせたこと。

### ◇課題

**まだまだ取り組みが「エリート主義的」であること。**

我々としては過保護と思える支援をしているつもりだが、それでも敷居が高いという学生が多い。意識の「高い」学生のみを集めているにすぎない面がある。

…もう少し「気軽」にきっかけを得られる取組として、ちょっとボランティア、ちょっと見学などのプログラムを開始している。

…不足していた取組を追加して事業(体制)を継続。外部評価は県内者で実施。

16